

四半期報告書

(第17期第3四半期)

自 平成24年8月21日

至 平成24年11月20日

株式会社イオンファンタジー

千葉県千葉市美浜区中瀬一丁目5番地1

表紙

第一部 企業情報

第1 企業の概況

1 主要な経営指標等の推移	1
2 事業の内容	2

第2 事業の状況

1 事業等のリスク	2
2 経営上の重要な契約等	2
3 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析	2

第3 提出会社の状況

1 株式等の状況

(1) 株式の総数等	4
(2) 新株予約権等の状況	4
(3) 行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等	4
(4) ライツプランの内容	4
(5) 発行済株式総数、資本金等の推移	4
(6) 大株主の状況	4
(7) 議決権の状況	5

2 役員の状況	5
---------	---

第4 経理の状況

1 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表	7
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	9
四半期連結損益計算書	9
四半期連結包括利益計算書	10

2 その他	14
-------	----

第二部 提出会社の保証会社等の情報

[四半期レビュー報告書]

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成24年12月28日
【四半期会計期間】	第17期第3四半期（自 平成24年8月21日 至 平成24年11月20日）
【会社名】	株式会社イオンファンタジー
【英訳名】	AEON Fantasy Co.,LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 土谷 美津子
【本店の所在の場所】	千葉県千葉市美浜区中瀬一丁目5番地1
【電話番号】	043（212）6203（代表）
【事務連絡者氏名】	取締役 経理・管理本部・本部長 新田 悟
【最寄りの連絡場所】	千葉県千葉市美浜区中瀬一丁目5番地1
【電話番号】	043（212）6203（代表）
【事務連絡者氏名】	取締役 経理・管理本部・本部長 新田 悟
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第17期 第3四半期 連結累計期間
会計期間	自平成24年2月21日 至平成24年11月20日
売上高（千円）	32,297,940
経常利益（千円）	2,204,683
四半期純利益（千円）	953,951
四半期包括利益（千円）	994,940
純資産額（千円）	19,131,399
総資産額（千円）	26,293,037
1株当たり四半期純利益金額（円）	52.62
潜在株式調整後1株当たり 四半期純利益金額（円）	52.46
自己資本比率（%）	71.7

回次	第17期 第3四半期 連結会計期間
会計期間	自平成24年8月21日 至平成24年11月20日
1株当たり四半期純利益金額（円）	11.90

- (注) 1. 当社第17期第1四半期連結累計期間より四半期連結財務諸表を作成しているため、前第3四半期連結累計期間及び前連結会計年度の経営指標等については記載しておりません。
2. 当社は四半期連結財務諸表を作成しているため、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
3. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の連結子会社）は、タイに進出しました。これに伴い、当社は子会社が2社増加しました。

当第3四半期連結累計期間に設立した子会社は、次のとおりであります。

イオンファンタジータイランド（AEON Fantasy(Thailand) Co.,Ltd.）

イオンファンタジーホールディングスタイランド（AEON Fantasy Holdings (Thailand) Co.,Ltd.）

この結果、平成24年11月20日現在、当社グループは、当社及び子会社4社により構成されることとなりました。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定または締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

第1四半期連結累計期間より四半期連結財務諸表を作成しているため、数値についての対前年同四半期比の記載は行っておりません。

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

(1)業績の状況

当社は、遊びを通じて子供たちの健全な育成を目指し、中期経営計画の実現に向けて、国内における成長持続と海外での新規出店増による成長拡大をするべく、それぞれの施策を進めております。

当第3四半期連結累計期間は、国内既存事業の収益力向上にむけた店舗活性化やオリジナル遊戯機械開発を進めるとともに、海外においては中国、マレーシアに続きタイにおいて事業を開始するなど、アセアン地域での成長基盤の強化を進めました。

当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高322億97百万円、営業利益21億87百万円、経常利益22億4百万円、四半期純利益9億53百万円となりました。

（国内事業）

当第3四半期累計期間は、店舗活性化の具体的な手段として、オリジナル遊戯機械開発や時間制遊具グループの遊具開発等、当社の強みの充実が店舗の差別化実現と幼児分野の強化に直結し、既存店の収益確保に貢献しました。

また、営業力の強化にむけて取り組んだ現場オペレーションの見直しや‘課題解決型’のマネジメント手法の導入等を通じ、現場第一線の収益確保への意識向上が図られるなど、総じて計画に対する組織全体の参画意識が向上する結果となりました。

これらの結果、当第3四半期連結累計期間における国内事業の売上高は315億50百万円、セグメント利益は24億円となりました。

（海外事業）

アセアンにおいてはマレーシアで4店舗の新規出店に加え、5月に会社を設立したタイにおいて、11月1日に1号店がオープンいたしました。いずれも計画を上回り推移しております。

なお、中国については、積極的な投資により中国で7店舗の新規出店を行いました。一時的に9月の売上が落ち込みましたが現状は回復しております。しかしながら、出店先ショッピングセンター自体の立地やショッピングセンター内の立地等の違いにより、計画数値に対し実績は店舗ごとのばらつきが出ております。

これらの結果、当第3四半期連結累計期間における海外事業の売上高は7億65百万円、セグメント損失は2億12百万円となりました。

今後は、当社にとって魅力的な出店先の厳選等、確実な物件評価と柔軟な出店条件を確保し、着実な拡大を進めて参ります。

財政状態の分析

	第17期 第3四半期連結会計期間末 (平成24年11月20日)
	百万円
流動資産	13,123
固定資産	13,169
流動負債	6,943
固定負債	217
純資産	19,131

(流動資産)

当第3四半期連結会計期間末における流動資産の残高は、131億23百万円となりました。主な内訳は、現金及び預金56億94百万円、売上預け金18億31百万円、関係会社寄託金37億円であります。

(固定資産)

当第3四半期連結会計期間末における固定資産の残高は、131億69百万円となりました。主な内訳は、遊戯機械71億62百万円、のれん11億14百万円であります。

(流動負債)

当第3四半期連結会計期間末における流動負債の残高は、69億43百万円となりました。主な内訳は、未払費用18億21百万円、設備関係支払手形20億79百万円であります。

(固定負債)

当第3四半期連結会計期間末における固定負債の残高は、2億17百万円となりました。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産の残高は、191億31百万円となりました。主な内訳は、資本金17億47百万円、資本剰余金17億16百万円、利益剰余金154億75百万円であります。

経営成績の分析

(売上高)

売上高は322億97百万円となりました。その部門別内訳は、遊戯機械売上高250億7百万円、商品売上高71億70百万円、委託売上高1億14百万円、その他5百万円であります。

(売上原価)

売上原価は280億22百万円となりました。

(販売費及び一般管理費)

販売費及び一般管理費は20億87百万円となりました。

(営業外収益及び営業外費用)

営業外収益は52百万円となりました。主な内訳は受取利息15百万円、機械仕入割戻10百万円、固定資産売却益10百万円あります。営業外費用は35百万円となりました。主な内訳は為替差損11百万円、固定資産売却損18百万円あります。

(2) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(3) 研究開発活動

該当事項はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	50,000,000
計	50,000,000

②【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成24年11月20日)	提出日現在発行数(株) (平成24年12月28日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	18,175,688	18,175,688	株式会社東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数 100株
計	18,175,688	18,175,688	—	—

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
平成24年8月21日～ 平成24年11月20日	—	18,175,688	—	1,747,139	—	1,650,139

(6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成24年8月20日）に基づく株主名簿による記載をしております。

① 【発行済株式】

平成24年11月20日現在

区分	株式数（株）	議決権の数（個）	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式（自己株式等）	—	—	—
議決権制限株式（その他）	—	—	—
完全議決権株式（自己株式等）	普通株式 44,500	—	—
完全議決権株式（その他）	普通株式 18,037,700	180,377	—
単元未満株式	普通株式 93,488	—	—
発行済株式総数	18,175,688	—	—
総株主の議決権	—	180,377	—

② 【自己株式等】

平成24年11月20日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数（株）	他人名義所有株式数（株）	所有株式数の合計（株）	発行済株式総数に対する所有株式数の割合（%）
株式会社イオンファンタジー	千葉県美浜区中瀬一丁目5番地1	44,500	—	44,500	0.24
計	—	44,500	—	44,500	0.24

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

なお、当社は第1四半期連結累計期間より四半期連結財務諸表を作成しているため、比較情報は記載しておりません。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（平成24年8月21日から平成24年11月20日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成24年2月21日から平成24年11月20日まで）に係る四半期連結財務諸表について有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】
 (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

当第3四半期連結会計期間
 (平成24年11月20日)

資産の部	
流動資産	
現金及び預金	5,694,530
売上預け金	※1 1,831,191
たな卸資産	801,594
関係会社寄託金	※2 3,700,000
その他	1,096,170
流動資産合計	13,123,487
固定資産	
有形固定資産	
遊戯機械（純額）	7,162,748
その他（純額）	2,055,137
有形固定資産合計	9,217,886
無形固定資産	
のれん	1,114,993
その他	42,802
無形固定資産合計	1,157,795
投資その他の資産	
敷金及び差入保証金	2,038,640
その他	755,228
投資その他の資産合計	2,793,868
固定資産合計	13,169,550
資産合計	26,293,037
負債の部	
流動負債	
買掛金	929,617
未払費用	1,821,225
未払法人税等	690,570
賞与引当金	333,244
役員業績報酬引当金	35,823
設備関係支払手形	2,079,651
閉店損失引当金	30,800
その他	1,022,857
流動負債合計	6,943,789
固定負債	
退職給付引当金	15,197
資産除去債務	191,497
その他	11,153
固定負債合計	217,848
負債合計	7,161,637

(単位：千円)

当第3四半期連結会計期間
(平成24年11月20日)

純資産の部	
株主資本	
資本金	1,747,139
資本剰余金	1,716,805
利益剰余金	15,475,215
自己株式	△71,466
株主資本合計	18,867,694
その他の包括利益累計額	
その他有価証券評価差額金	2,296
為替換算調整勘定	△23,510
その他の包括利益累計額合計	△21,213
新株予約権	46,314
少数株主持分	238,604
純資産合計	19,131,399
負債純資産合計	26,293,037

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年2月21日 至平成24年11月20日)
売上高	32,297,940
売上原価	28,022,907
売上総利益	4,275,032
販売費及び一般管理費	2,087,127
営業利益	2,187,905
営業外収益	
受取利息	15,770
機械仕入割戻	10,311
固定資産売却益	10,789
その他	15,400
営業外収益合計	52,272
営業外費用	
為替差損	11,176
固定資産売却損	18,327
その他	5,990
営業外費用合計	35,494
経常利益	2,204,683
特別損失	
閉店損失引当金繰入額	31,318
減損損失	9,631
店舗閉鎖損失	6,416
特別損失合計	47,366
税金等調整前四半期純利益	2,157,317
法人税、住民税及び事業税	1,472,663
法人税等調整額	△272,267
法人税等合計	1,200,395
少数株主損益調整前四半期純利益	956,921
少数株主利益	2,970
四半期純利益	953,951

【四半期連結包括利益計算書】
 【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年2月21日 至平成24年11月20日)
少数株主損益調整前四半期純利益	956,921
その他の包括利益	
その他有価証券評価差額金	2,296
為替換算調整勘定	35,721
その他の包括利益合計	38,018
四半期包括利益	994,940
(内訳)	
親会社株主に係る四半期包括利益	990,038
少数株主に係る四半期包括利益	4,901

【連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更】

(1) 連結の範囲の重要な変更

第1四半期連結会計期間より、イオンファンタジー北京（永旺幻想（北京）児童遊楽有限公司）及びイオンファンタジーマレーシア（AEON FANTASY (MALAYSIA) SDN. BHD.）については、今後重要性が増すと考えられるため、連結の範囲に含めております。また、第2四半期連結会計期間より、新たに設立したイオンファンタジータイランド（AEON Fantasy (Thailand) Co., Ltd.）及びイオンファンタジーホールディングスタイランド（AEON Fantasy Holdings (Thailand) Co., Ltd.）を連結の範囲に含めております。

(2) 持分法適用の範囲の重要な変更

該当事項はありません。

【追加情報】

（会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準等の適用）

第1四半期連結会計期間の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」（企業会計基準第24号 平成21年12月4日）及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日）を適用しております。

（四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項）

当社は、第1四半期連結会計期間より四半期連結財務諸表を作成しております。四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項は以下のとおりです。

1. 連結の範囲に関する事項

すべての子会社を連結の対象としており、その内容は次のとおりであります。

連結子会社の数 4社

連結子会社の名称 永旺幻想（北京）児童遊楽有限公司 AEON FANTASY (MALAYSIA) SDN. BHD.
AEON Fantasy (Thailand) Co., Ltd. AEON Fantasy Holdings (Thailand) Co., Ltd.

2. 持分法の適用に関する事項

該当事項はありません。

3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社のうち永旺幻想（北京）児童遊楽有限公司の決算日は、12月31日であります。

四半期連結財務諸表の作成に当たっては、同四半期決算日現在（平成24年9月30日）の財務諸表を使用しております。ただし、10月1日から四半期連結決算日11月20日までの期間に発生した重要な取引については、連結上必要な調整を行っております。

4. 会計処理基準に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

たな卸資産の評価基準及び評価方法

商品 売価還元平均原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）

貯蔵品 最終仕入原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

①有形固定資産（リース資産を除く） 経済的耐用年数に基づく定額法

各資産別の耐用年数として下記の年数を採用しております。

建物(建物附属設備) 3～10年

遊戯機械 2～6年

器具備品 2～10年

②無形固定資産（リース資産を除く）

自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法を採用しております。

③長期前払費用

定額法

(3)重要な引当金の計上基準

①賞与引当金

社員及びフレックス社員（パートタイマー）に支給する賞与に備え、支給見込額のうち当四半期連結累計期間に負担する金額を計上しております。

②役員業績報酬引当金

役員に対する業績報酬の支給に備えるため、支給見込み額のうち、当四半期連結累計期間に負担する金額を計上しております。

③退職給付引当金

従業員の退職給付に備え、当四半期連結会計期間末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき当四半期連結会計期間末において発生していると認められる額を計上しております。なお、過去勤務債務は発生年度において一括処理し、数理計算上の差異は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間内の一定の年数（10年）による定額法により翌連結会計年度から費用処理することとしております。

④閉店損失引当金

店舗の閉店に伴い発生する損失に備え、店舗閉店により合理的に見込まれる中途解約違約金等の閉店関連損失見込額を計上しております。

(4)重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算の基準

外貨建金銭債権債務は、四半期連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。なお、在外子会社の資産及び負債は、在外子会社の四半期決算日の直物為替相場により円貨に換算し、収益及び費用は期中平均相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定及び少数株主持分に含めて計上しております。

(5)のれんの償却方法及び償却期間

効果の発現する期間等（10年間）の定額法により償却を行っております。

(6)四半期連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

四半期連結キャッシュ・フロー計算書における資金（現金及び現金同等物）は、手許現金、随時引出可能な預金からなっております。

(7)その他四半期連結財務諸表作成のための重要な事項

消費税等の会計処理 税抜方式によっております。

【注記事項】

（四半期連結貸借対照表関係）

※1. 売上預け金

ショッピングセンターの店舗賃貸人に預けている売上代金であります。

※2. 関係会社寄託金

余裕資金の有効活用を目的としてイオン株式会社との間で金銭消費寄託契約を締結しており、当該契約による寄託金であります。

（四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係）

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費（のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。）及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	当第3四半期連結累計期間 （自 平成24年2月21日 至 平成24年11月20日）
減価償却費	2,738,269千円
のれんの償却額	202,808

(株主資本等関係)

当第3四半期連結累計期間(自平成24年2月21日 至平成24年11月20日)

1. 配当金支払額

平成24年4月5日の取締役会において、次のとおり決議しております。

・普通株式の配当に関する事項

① 配当金の総額	580,143千円
② 1株当たり配当額	32円
③ 基準日	平成24年2月20日
④ 効力発生日	平成24年4月24日
⑤ 配当の原資	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの
該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当第3四半期連結累計期間(自平成24年2月21日 至平成24年11月20日)

1. 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務諸表が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、ショッピングセンター内エンターテインメントアミューズメント施設の設置運営を主な事業としており、国内における「国内事業」、海外における「海外事業」の2つを報告セグメントとしております。

「国内事業」は当社が事業を営んでおり、「海外事業」は、イオンファンタジー北京(永旺幻想(北京)児童遊楽有限公司)が中国において、イオンファンタジーマレーシア(AEON FANTASY (MALAYSIA) SDN. BHD.)がマレーシアにおいて、イオンファンタジータイランド(AEON Fantasy (Thailand) Co., Ltd.)がタイにおいて、ショッピングセンター内エンターテインメントアミューズメント施設の設置運営事業をそれぞれ営んでおります。

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と概ね同一であります。

3. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額	四半期連結損益計算書計上額(注)1
	国内	海外	計		
売上高					
外部顧客への売上高	31,532,818	765,122	32,297,940	—	32,297,940
セグメント間の内部売上高又は振替高	17,405	—	17,405	△17,405	—
計	31,550,223	765,122	32,315,345	△17,405	32,297,940
セグメント利益又は損失(△)	2,400,218	△212,312	2,187,905	—	2,187,905

(注) 1. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	当第3四半期連結累計期間 (自 平成24年2月21日 至 平成24年11月20日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額	52円62銭
(算定上の基礎)	
四半期純利益金額 (千円)	953,951
普通株主に帰属しない金額 (千円)	—
普通株式に係る四半期純利益金額 (千円)	953,951
普通株式の期中平均株式数 (株)	18,130,690
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額	52円46銭
(算定上の基礎)	
四半期純利益調整額 (千円)	—
普通株式増加数 (株)	52,986
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	—

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

株式会社イオンファンタジー

取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	陸田 雅彦	印
--------------------	-------	-------	---

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	渡辺 雅子	印
--------------------	-------	-------	---

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社イオンファンタジーの平成24年2月21日から平成25年2月28日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成24年8月21日から平成24年11月20日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成24年2月21日から平成24年11月20日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社イオンファンタジー及び連結子会社の平成24年11月20日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。
2. 四半期連結財務諸表の範囲にはX B R Lデータ自体は含まれていません。

【表紙】

【提出書類】	確認書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の8第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成24年12月28日
【会社名】	株式会社イオンファンタジー
【英訳名】	AEON Fantasy Co.,LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 土谷 美津子
【最高財務責任者の役職氏名】	取締役 経理・管理本部・本部長 新田 悟
【本店の所在の場所】	千葉県千葉市美浜区中瀬一丁目5番地1
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

1 【四半期報告書の記載内容の適正性に関する事項】

当社代表取締役土谷美津子及び取締役経・管理本部・本部長新田悟は、当社の第17期第3四半期（自平成24年8月21日 至平成24年11月20日）の四半期報告書の記載内容が金融商品取引法令に基づき適正に記載されていることを確認しました。

2 【特記事項】

確認に当たり、特記すべき事項はありません。